

子どもの心身の発達を促す  
～Rちゃんが安心して過ごせる環境の中で～



社会福祉法人 愛護会

東水沢保育園

保育士 小野寺 七恵

## 1、研究主題

子どもの心身の発達を促す  
～Rちゃんが安心して過ごせる環境の中で～

## 2、主題設定の理由

昨年度から持ち上がりの15人に加え今年度は3人の新入園児を迎えスタートした。

その中で転園してきたRちゃんはこだわりが強く、思い通りにならないとパニックを起こしたように泣き叫び保育室から飛び出していくという行動が目立っていた。新入園児面接で母親より「前の保育園ではこだわりが強い子で大変ですと言われてきました。新しい保育園ということもありご迷惑かけると思いますがよろしくお願いします」と話された。保育園に対して嫌なイメージをもっている様子はないが、新しい環境ということでRちゃんが園生活に慣れるか心配しているため、Rちゃんの保育園での様子を沢山話し安心して預けられる環境を整えようと考えた。

Rちゃんはパズルなどの頭を使った複雑な遊びは得意とするものの園庭では砂場遊びなど身体を使う遊びをあまりしない。また朝の活動として行うリズム運動の際は、「やらない!」と隅で見たり、ホールからの飛び出しがあり保育室や廊下に出て行くという行動も多い。次の行動に移ることが難しく、場面転換に弱いところが多く見られる等その行動に戸惑い悩む毎日だった。

そこで、保育士との信頼関係を築きRちゃんが安心して友達と過ごせるような場（居場所）を作り、好きな遊びは何か見つけたりしながら、気持ちを十分開放した園庭での遊びや、季節に合った活動をクラスの友達と行う中で、心身の発達を促していきたいと考え本主題を設定した。

## 3、研究のねらい

- ①本児を取り巻く人的、物的環境を整えていくことで安心して過ごせる場を作っていく。
- ②友達と遊ぶ楽しさ、身体を動かして遊ぶ喜びを味わわせていく。
- ③季節に合った活動や大きな行事を通して身体の発達を促していく。

## 4、研究の仮説

- ・信頼関係を築き、気持ちに寄り添いながら、Rちゃんに合った支援・環境作りを行うことで、安心して様々な活動に取り組めるようになり、心身の発達が促されるのではないか。

## 5、研究内容と方法

- ・理論研究
- ・Rちゃんの姿を理解し、Rちゃんの行動、援助に対する反応などから様々な支援(環境)の手立てを考える。

## 6、研究実践

### ①理論研究

#### ア、安心して過ごせる環境づくりについて

子どもの居場所を保障する。(子どもと保育 3歳児より抜粋)

子どもの居場所とは、単に入らすべき保育室があるといった物理的空間ではない。

逆に、人間関係から逃避する閉じこもった心理的な逃げ場でもない。他者との関係の中で自分を自由に表出・表現でき、安心でき、自己肯定感をもてる自己確認の場にほかならない。このような居場所は、ともに生活し、受け止め合い、支え合い、励まし合う自他関係のなかで作り出されるべきものである。

◎安心できる場所を作っておくということは保育士自身も本児にとって安心できる場所(心のより所・環境)でなければならないということを学んだ。

#### イ、3歳児とリズム (子どもと保育 3歳児より抜粋)

エネルギーの塊のような3歳児にとって、リズムほどピッタリくる教材はない。

なぜなら3歳児の身体が、乳児から幼児へ変わっていく時期だからである。2歳まではまねっこの世界で、筋力もまだまだ未発達だったのだが、3歳をすぎると足腰がしっかりしてきて、プヨプヨのお肉のついた足がスリムになり、おなかがプクッと膨れた乳児体型から、幼児体型に変わる時期だからである。

この時期、模倣でしていた動きを正しい動きに変えていかなければならない。3歳頃にスキップができるといわれている。「できる、できない」を気にしだすといわれているが、スキップができた喜びはすごいもの、どこに行くにもスキップ、そして『みてみてコール』がすごい。

◎リズム運動は3歳児にとって最適な活動であり足腰の筋肉がつき身体つきがしっかりするということを学び、保育に生かしていこうと考えた。Rちゃんにとって安心できる保育士・クラス集団・そしてリズム運動の環境作りから取り組んでいく。

## ②Rちゃんの姿・援助

### <4月> ・「みんなきらいーい」

#### 【Rちゃんの姿】

登園初日。新入園児だったが転園ということもあり、大人数に泣いたりすることなく登園する。新しい友達にワクワクしていた在園の子ども達が、Rちゃんに話しかけた途端突然怒り出し「みんなきらいーい！！」と泣き叫んだ。

#### 【他児の姿】

新しい友達に興味をもち友達になりたいと思って声をかけたものの、大きな声と思いがけない言葉に驚き、びっくりした表情を見せる。

#### ・保育者の対応

「嫌だったね。Rちゃん〇〇して遊んでいたんだもんね」と気持ちに寄り添い、代弁していく。また、他児にも「今違う遊びしてたから嫌だったんだって」とRちゃんの状態に気付かせながら、びっくりした気持ちを落ち着かせていく。

#### 【Rちゃんの変化】

Rちゃんの状態に寄り添っていくことで、4月中旬頃から、抱っこなどして落ち着けば話を聞いてくれるようになり、担任との信頼関係ができつつあることを実感する。

お母さんにも、日々の様子を連絡帳やお迎えの時間に「今日は園庭遊びが楽しくてなかなかお部屋に入れなかったんですけど、すべり台滑ったら中においでね！と言ったらちゃんと戻ってきたんですよ！」などと様々な日中の様子を伝える。

#### 【Rちゃんの姿】

①担任との信頼関係が出来つつあるもののしばらく経っても友達との関係は変わらず、クラスにはなかなか馴染めないでいて、一人遊びが多い。また友達と関わることも避けており散歩の際は友達と手を繋ぐことを嫌がり

「おともだちきらいだもん」と手を引っ込め、担任と手を繋ごうとする。  
②遊び始めると室内に入ることを拒み、最後の年長児が室内に入り、園庭に一人になるまで遊び続ける。

### 【他児の姿】

嫌いという言葉に反応するものの言い返したりはせず、なんでだろう？という顔で見ている。同じクラスのKちゃんは泣いているRちゃんに優しく声をかけたり、心配そうな表情で見ている。

#### ・保育者の対応

- \*クラスの子ども達にも本当に嫌いなわけではないこと、Rちゃんが嫌だと言った時はそっとしておくことを子ども達に話しRちゃんの思いに気づかせるようにしていく。
- \*自由に遊ぶ中でも、「何して遊んでいるの？一緒に遊んでもいい？すべり台も楽しいよ！」などと声をかけどこでどんな遊びを楽しんでいるか把握していく。また片付けの際は5分程前に「もう少しでご飯の時間だから、そろそろお片付けの時間だよ」と事前に見通しをもった声かけを行っていく。室内に入る際にもKちゃんに手を繋いで入るよう促したり、昼食の際は隣で食べられるよう場を設定していく。
- \*Rちゃんのことを誰よりも心配しているKちゃんの姿を見守り、Rちゃんの機嫌がいい時にさりげなくKちゃんと話したり一緒にあそぶ機会を作っていく。

### 【Rちゃんの変化】

散歩の際は同じ月齢のKちゃん(女)であれば喜んで手を繋ぐようになる。そこで、Kちゃんとの関わりを大切にしながらクラス内での生活が心地良くなるようにしていく。4月後半にはすべり台が気に入り、「せんせい、ちょっとおいで！Rと一緒にすべろうよ！」「カンカン(手で踏み切りのようにしてクイズを出す遊び)して！」と保育士を遊びに誘うようになる。今までは砂場など静かな遊びが主だったが、砂場に固定せず、遊具での身体を使った遊びも楽しめるようになる。散歩の際も、優しく声をかけてくれていたKちゃんに声をかけ自分から手を繋ごうとし他の子だと「おさんぽいかない」と怒る程大好きな友達になる。

#### ・保育者の対応

納得できないこと、嫌なことがあると保育室から飛び出してしまう時は無理に保育室には戻さず話しかけたり「嫌だったんだよね、したくなかったんだよね」と気持ちを代弁したり「じゃあ、お友達が終わったら迎えに来るから、そうしたらお部屋に戻ろうね」と見通しをもった声掛けを行い気持ちの切り替えがしやすいようにしていく。

飛び出して行っても、みんなが何しているのか気になって室内を見る、担任に迎えに来て欲しいと待っている姿がある。

Rちゃんとの信頼関係ができつつあることを感じながらも、Rちゃん一人に手をかけることで他児と遊べず目をかけられなかったり、十分関わってもRちゃんがなかなかクラスになじめなかったり、保育室から飛び出すたびに追いかける事で保育が中断してしまい悩みながら保育を行っていた。他児もRちゃんだけどうしてまだ遊んでいるんだろうと気にする子もいて声のかけ方や対応の仕方に悩んだ。

#### ・他職員との連携

一緒にクラスに入っている職員にもRちゃんは今どんな気持ちでいるのだろう、どうしたらRちゃんが心地よく集団に入れるかなど相談したり、話したりしていたためRちゃんが泣き出すと、「気持ちの整理がつくまで子ども達見てるからRちゃんと行ってきていいよ」と温かい言葉をかけてもらい、ホールなど誰もいない静かな空間に行き1対1でゆっくり話をすることができ、私自身気持ちが和らぎ前向きに保育を行うことができた。

### < 5月 > ・リズム運動楽しいね！

#### 【Rちゃんの姿】

ゴールデンウィーク明けも変わらず保育室からの飛び出しはあるものの、4月になかなか取り組めなかったリズム運動にも興味を示し始め、得意気に行えるようになる。しかし身体のバランスが悪く、ウサギ(両足ジャンプ)やスキップ、ギャロップは苦手。負けず嫌いで、できない事があると怒り出すこともある。他児に声を掛けられたり見られていることが分かれると突然やらなくなってしまうこともあった。

#### 【他児の姿】

リズム運動をしないRちゃんを気にしながら行っていたようで、Rちゃん

がリズム運動をやろうとすると保育士に「Rちゃんがやってる」と話したりする姿がある。

・保育者の対応

声を掛けられるとたちまちやらなくなるので他児には「Rちゃんかっこよくやるから静かに見ててね」と話す。

Rちゃんができることを沢山褒め、個別の対応を行っていく。気持ちを開放できる園庭で、手をつないで一緒にスキップをする。リズムが分かるように「トント、トント…」と掛け声をかけながら楽しい雰囲気の中で行う。

金魚の動きや、かめ、ハイハイは喜んで真似して行っているため、援助しすぎず褒めることを心がけた。

慣れてきたり、機嫌のいいときを見計らって優しく声を掛け身体を揺らしてあげたり足の指を立てることなどを知らせ「ここを直すともっと良くなるよ」と声をかけていく。

みんなで行うリズムの時間は、声を掛けすぎず、みてみて！の気持ちは受け止め、後は友達と同じ空間にいられることを目標にしながら進めていく。

【Rちゃんの変化】

リズム運動が楽しい時間となり、その時間はホールからの飛び出しが少なくなる。

まだバランスの悪いスキップではあるものの、「みて！できるよ！」と自慢気に保育士に見せる。保育者やできる友達を見ながら楽しく自分なりに進めていくうちに、スキップを自分のものにしバランスも取れてくる。

・「みんなすきー！」

【Rちゃんの姿】

泣いている時など、友達に声をかけられると「みんなきれい！」と大声を出すことがあったのだが、おやつのお牛乳がなかなか飲み終わらずにいた時「みんなおうえんして！」と言う。しかし他児には聞こえなかったらしく応援の音が上がらない。

・保育者の対応

「いつもみんなきらい！って言ってるからじゃない？みんな好きって言ってみたら？」とアドバイスする。

【Rちゃんの変化】

保育士に言われると、恥ずかしそうにしながら声を絞り出すように大きな声で、「みんなすきー！」と言い本児もびっくりしていた。「みんなおうえんして」の言葉はクラスの中の一人、友達と一緒にいいという表れで心の成長を大きく感じた。クラスの子ども達も思いがけない言葉にビックリしながらも「Rちゃんががんばれー！がんばれ！がんばれ！」と応援が始まりRちゃんも応援に応えるように牛乳を一気に飲み干したことは大きな変化だった。そしてこの出来事だけでなく様々な生活の中でKちゃん以外の友達とも関わられるようになった。

<6月> ・「これはRちゃんの！とらないで！」

【Rちゃんの姿】

せっけん遊び、粘土遊びなどの感触遊びは嫌がらず楽しみ、30分以上集中して遊ぶ。みんなで使っていた泡の入ったボールを独り占めして「とらないで、つかうの！」と怒り始めた。

【他児の姿】

Rちゃんの大きな声にびっくりしたような表情をみせる。自分も使いたい、でもRちゃんが怒るからどうしたらいいのか分からなく保育士に話しに来る。

・保育士の対応

「Rちゃんもう少ししたら貸してくれるかな。」「まだ使いたいんだって、もう少し待ってみよう。」と声かける。

「みんなと一緒に使おうよ」と声をかけるが、嫌がり「Rがつかうのー！」と泣き叫ぶ。「Rちゃんが使いたいよね。」とRちゃんの気持ちを代弁しながらも「みんなも使いたいんだけどな」と他児の気持ちも知らせていく。他児へは他のボールを何人かで使うよう声掛ける。

【Rちゃんの変化】

納得がいかなかったり、嫌なことがあると、相変わらず泣き叫ぶ事はあるものの、その場から離れたり保育室からの飛び出しなどはなくなり、周りの友

達を気にしたり関わって遊べるようになってきた。

## < 7月・8月 > ・お友達、戸外遊びだーいすき！

### 【Rちゃんの姿】

#### [砂場遊び]

クラスみんなで大きな砂山を作る。Rちゃんはその隣に一人で砂山を作り、「プリンじま」と名づける。昼食中、年長クラスの子ども達に壊されてしまったが、「また作れば大丈夫だよ！」と言う保育士の言葉に「またつくろうね！」と泣き叫んだりせず、納得する姿が見られ、心の成長を感じる。

#### [運動遊び]

友達が鉄棒の前回りをする姿をみて鉄棒に近づくが、恐怖心から触れない。無理はさせず、布団やマットの上での前転、うんていのぶら下がりに誘っていく。これらは喜んで行う。日々の雑巾がけも喜んで行い、腕の力もつきリズムの[ゾウ]の動きも足の親指を立てて進めるようになってくる。

#### [プール遊び]

全身を使ってプール遊びを楽しむ。水を怖がることはなく水しぶきを上げながらワニ、金魚、カエルなどになりきって水の中で遊ぶことができる。友達に水をかけられても泣いたりせず遊び続けることができる。

顔付けも、友達がやっている姿をみて、やってみようとする。怖がって鼻先だけ水につけるが、「せんせい、できたよ！みてて！」と得意気に見せる。友達に負けたくなくて、何度も練習するうち、表面だけだが、顔全体をつけることができるようになる。

### 【他児の姿】

Rちゃんが友達と関わってくるようになると、他児もRちゃんに話しかけたり、「Rちゃんプリンじま作ってるんだって！こわしちゃだめだよ。」と保育士に話したりする。

・保育者の対応

Rちゃんの気持ちを受け止めながらも他児の気持ちを知らせることで相手の気持ちに気付かせていく。

全身を開放した遊びの中で心の安定と全身の発達を促していく。Rちゃんの様子を見ながら、「〇〇したらどうかな？次は〇〇に変えてみよう！」とRちゃんが納得して活動できるよう、援助の方法を変えながら関わった。

【Rちゃんの変化】

クラスでの活動も意欲的になり嫌いな友達はいなくなるが、時々友達に手伝ってもらったり「〇〇したら？」と友達に教えてもらうことを嫌がり悔し泣きする。

【他児の姿】

Rちゃんの気持ちを汲み、待つてあげることができるようになってきた。

< 9月 > ・運動会

3歳児の種目は、個人競技（鉄棒、巧技台ジャンプ）、遊戯、リズム、親子競技（平均台）、リレー の5種目である。一番成長を感じたのは鉄棒であった。

【Rちゃんの姿】

他児が運動会に向けて鉄棒の練習を始めると、Rちゃんも触ろうとするが恐怖心から触れない。室内での練習を始め、他児が回っている姿を見ているうちに固定遊具の鉄棒には触れられるようになったため、[ぶたのまるやき]を教えてあげると喜んで行い、地区センターでの練習が始まってからも、得意気に[ぶたのまるやき]を披露する。“出来るかも” と思い「やってみよう！」とRちゃんに声をかけるがRちゃんはまだ心の準備ができていないようで、怖がってチャレンジしない。

【他児の姿】

Rちゃんが園庭で鉄棒をして遊んでいると保育士に「Rちゃんがてつぼうでぶたさんやってたよ」などと報告する。

・保育者の対応

Rちゃんがやりたい気持ちになるまで待ち、やりたいと保育士に訴えてから援助する。小さなことでもできることを褒めながら自信につなげていく。

### 【Rちゃんの変化】

9月中旬、地区センターでの練習の際、「できそう」と言って前回りを一人でしようとする。手を離しそうになるが、上から手を押さえる形で支え、補助すると前に回ることに躊躇せず、一人で回ることができる。褒められることで自信につながり、園庭で遊ぶ際にも「せんせいみてて！Rできるよ」と言い、一人で前回りができるようになり友達に「おなかみるとできるんだよ」と教える姿も見られるようになった。

運動会当日は、お父さん・お母さんの場所を確認して「やるからみててね」と言わんばかりに保護者席を見つめながら前回りをする。

保護者もRちゃんの姿に喜び、休み明けの連絡帳には泣かないで出来たこと、練習の様子からは想像できないくらい上手になっていて驚いているという内容が書かれており、私も嬉しかった。

## < 11月 > ・文化祭

3歳児は、自由画と個人製作（動物）共同制作（ライオン）を作る。

### 【Rちゃんの姿】

初めは喜んで描き始めるもののすぐに飽きて途中で止め、後から付け足して書いたりすることもあった。

何日間かけて自由に絵を描くことができるようになると、頭の中にイメージしたものを喜んで描き始め「〇〇ちゃんとねー、せんせいとねー、えんていであそんでるの…」と話しながら描く。

途中から「くもにのってね…」と空想に変わりながらも描写が細かくなり、集中して描く。

#### ・保育士の対応

無理に描かせるのではなく、「お散歩たのしかったよね」など楽しかった思い出を話しながらイメージを広げられるようにしていく。描いているうちに空想や違う経験の絵に変化していくが、止めたりせず本児が描くことを楽しめるようにする。

### 【Rちゃんの変化】

絵に向かう時間が少なかったが、描くことを楽しみにするようになり絵の中に友達も沢山表現できるようになる。まだ集中力に欠けることもある。

## < 1 2 月 > ・ 表現発表会

3歳児は、一人2つの台詞と身体表現、遊戯を行う。

### 【Rちゃんの姿】

[トマト役]

自分で決めた役だからこそ、練習初日から意欲的に参加する。

遊戯練習初日、朝から不機嫌な様子で大好きな遊戯もやりたくない途中でやめてしまう。日を改めて練習すると、一度で振りを覚えすぐ曲に合わせて踊ることができる。セリフの練習も何度か行っていくうちに「きょうはしない」と言い練習に参加しないことが多くなる。

### ・ 保育者の対応

練習を進める保育士が担任ではなかったため、職員間の連絡を密にし、Rちゃんの気持ちのフォローを行っていく。遊戯の練習は担任が主だったためRちゃんに「今やってみる？」と尋ねたり、機嫌のいいときを見計らって練習を進めていく。

### 【Rちゃんの変化】

発表会当日

緊張からか、登園時から機嫌が悪く衣装を着られない。「白い服だけ着よう」「帽子だけかぶる？」などRちゃんの気持ちに寄り添いながら話し掛け衣装をどうにか着せようとする。着せようとするほどRちゃんの気持ちも遠のき泣いてしまうので、いい気持ちで入場できることに重きを置き「着替えしないで、ニコニコ笑顔で行くよ」と言い、おんぶで入場。おんぶのままステージに登る。

幕が開く直前、最後に「衣装着る？」と声かけると「うん」と答え、自分の台詞と身体表現、遊戯を行うことができた。

Rちゃんに無理をさせなかった事、最後まで信じてステージ上まで衣装を持っていったことが良かった。

## 7、研究の結果と考察

新しい友達や環境に慣れるのに時間がかかり、こだわりが激しく、集団が苦手なRちゃんの支援は容易なことではなく何度も心が折れそうになったが、Rちゃんの気持ちにとにかく寄り添い、精神的な安定を図ることで人的・物的環境に慣れ、意欲的に園生活を送られるようになった。

子どもの心身の発達を促すためには、まず環境（人的・物的）が安心できるものでなければならぬと確信できた。

信頼関係を築き気持ちに寄り添いながら、Rちゃんに合った援助を行ってきたことで様々な活動に意欲的になり、心身の発達が促された。プール遊びや戸外での活動を通して気持ちを開放したり保護者から褒められたり、周りの人的環境（保育者、友達）に関わり方を知ってもらうことでRちゃんにとって居心地のいい環境を整えていくことにつながった。

また、クラス担任ではない保育者からも協力してもらえるように様子などを伝えておくべきことは職員会議などで話し全職員に知ってもらった。

Rちゃんのように個別の支援が必要な子に対しては、周りの様々な人たちと関わることも心身の発達を促すことに繋がっていると考えられるので、今後も大切に進めていきたい。

## 8、今後の課題

環境には慣れてきたもののこだわりの強さ、新しいことへのつまづきがまだまだ見られるので、無理に止めようとせずその都度Rちゃんの気持ちに寄り添った声掛けを行ったり、落ち着くまで見守ったりしながら保育を行っていききたい。

また、3歳児にとってぴったりくるリズム運動や運動遊びが好きになってきてはいるが、できることをもっと増やし自信へとつなげ発達を促していく。

Rちゃんの姿としてはクラスの友達、年上の友達とは自分から関われるようになってきたが年下の友達と関わる姿はあまり見られないので一緒に活動する中で気持ちを向けられるようにし、Rちゃんの間人関係を広げていきたい。

保育など一人で抱え込んでしまう場面が何度もあったので、一緒にクラスに入っている職員や他のクラスの先生に助けてもらえるよう子どもの姿、援助の仕方を共有し手伝ってもらえるような環境を自分自身から作っていく。

Rちゃんのもっている特徴からいろいろな環境を考え保育を行い少しずつ成長を促してきた。Rちゃんに限らずどの子にももっている特徴はあり、様々な援助の仕方を工夫したり、その子に合った環境作りを試み、成長を促しクラス集団の基礎作りを行っていききたい。

### <参考文献>

- ・秋葉 英則、白石 恵理子、杉山 隆一  
子どもと保育 改訂版 3歳児 (かもがわ出版)